

平成30年11月22日(木)

老球の細道448号

## 番狂わせ後の対応

会津バスケットボール協会 室井 富仁

1998年夏会津高校ホケッツ(中学時代補欠が多かった)は県総体において常勝福島工業をあづま体育館で再延長の末倒す大番狂わせを演じた。世にいう「あづまの奇跡」である。これに歓喜し、次の試合における準備を怠った私は準決勝で郡山高校(優勝)に2点差でまさかの敗退。母校25年ぶりの県大会優勝を逃がした。がっかりした会津高校ホケッツは3位決定戦で同地区の会津工業にも負けてしまった。

どんなに実力差があっても番狂わせは起こりえる。問題はその後の準備である。下馬評通りにはならないのが育成年代のゲームである。番狂わせの勝者でも敗者であっても、次の試合が重要である。アメリカのバスケットボール雑誌『TIME OUT』には番狂わせ試合後の「3つミーティング」について記されている。

### 【番狂わせで負けたチーム】

**\*試合直後のロッカールームで：**感情的にならないこと。試合前のコーチの準備が不足していたのか、選手の集中力が不足していたのか、それとも単に偶然だったのかを冷静に考えてみる。「今日は失敗したが、この負けは将来的に必ずプラスになる」と言う。

**\*次の練習にて：**楽観的に前向きな態度で練習に臨む。動きのある楽しいドリルをする。練習に入る前に先日の試合の敗北がチームにとって必要だったことを示す。次の大会ではさらに今までより成績を上げて番狂わせを起こさせたチームに感謝状を贈ろうとジョークを言う。試合形式の練習をたくさんして選手に自信をつけさせる。

**\*次の試合前のロッカールームにて：**とにかく気合を入れる。この試合こそ名誉挽回のチャンスだと示す。誰でも負けることはあるが、本当の勝者は負けてからのリカバリーでこそ力を発揮すると言う。オフェンスのことを確認する。なぜなら攻める気持ちと緊張感が大切だから。守りの姿勢で臨めば、またリードを奪うことができなくなる。試合の結果に触れず、気合が入った動きに集中させる。

### 【番狂わせで勝ったチーム】

**\*試合直後のロッカールーム：**興奮してもいいから冷静を保とう。選手のすばらしいプレイを誉めることから始める。この試合がこのシーズンの一つの試合にすぎないことを強調する。誰でも一つの試合くらいは勝てる。この後こそ重要だということを理解させる。

**\*次の練習にて：**何事もなかったように、ごく普通に練習を始める。いつもと同じことをするという意識が大切。前の試合を思い出すことのないように十分な休憩時間を与えない。試合後のロッカールームで言った言葉で練習を締めくくる。今こそ新たな挑戦の始まりだ。

**\*次の試合前のロッカールームにて：**番狂わせで勝った試合のビデオを見せる。この時のいいプレイを指摘し、それさえやれば勝利は確実だと示してやる。また、他のチームがすばらしい勝利のあとにすぐに負けてしまった時の話をしてやる。こうなるかどうかは我々しだいだと話し、プレイそのものに集中させる。

どちらにしても最も大切なことは、次の試合に集中させることである。多くのコーチは番狂わせの教訓を活かさず流れにまかせてしまう。チームの未来を運に任せてしまわない。

「成功は多くの者を滅ぼしている。傷つく者こそ教訓を得る」(ベン・フランクリン)